

## 編集後記

本号では先ず AIAA 副会長であると同時に、米空軍科学研究所 {AFOSR} 国際部長であるマーク・S・モーリス博士からの Executive Comment では各研究者間の関係構築が研究促進の為に重要であるとの見解を頂いた。CEO に聞くでは ViaSat の Mr. Mark Dankberg より Ka-band Broad Band 衛星通信事業が現在米国のみならず世界的視野で展開されておりその事業展開と人材獲得の重要性について述べられた。衛星余話で現在の SP JSAT の立ち上げ時に活躍された橋本和彦氏、Space Japan Interview では“昭和に咲くCS「さくら」の開発から学んだこと”の磯 彰夫氏、図らずも 1977 年打ち上げの Ka-Band 通信衛星「さくら」の開発とその応用で当時活躍された人々の記事に会い、私自身もこの両プロジェクトに当時少なからず関わっており、Ka-band 通信衛星の開発を世界に先駆け行ったことが今 2010 年代 Ka-band Broad Band 事業として世界的視野で発展していることに、研究開発とその実用化における人材交流の重要性を重ね合わせ感慨を覚える、SJR の読者にこのような記事を提供できることに幸せを感じています、引き続き、読後のご意見を頂ければ幸甚です。(編集特別顧問 S.K.)